



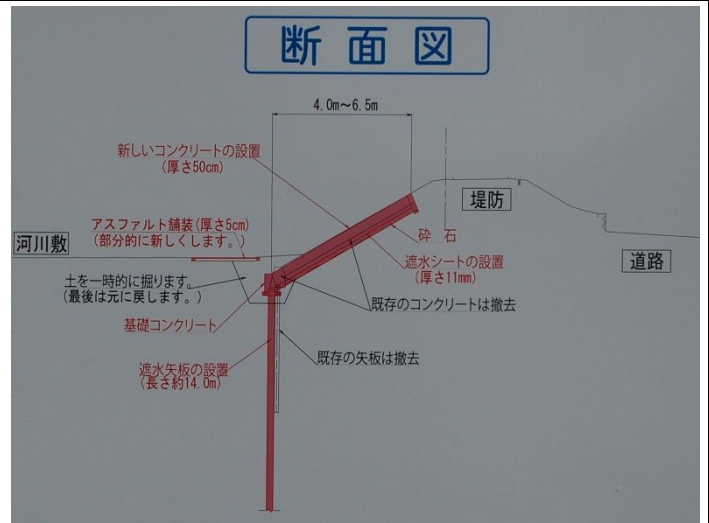
塩水浸透対策（引き抜かれた旧矢板）



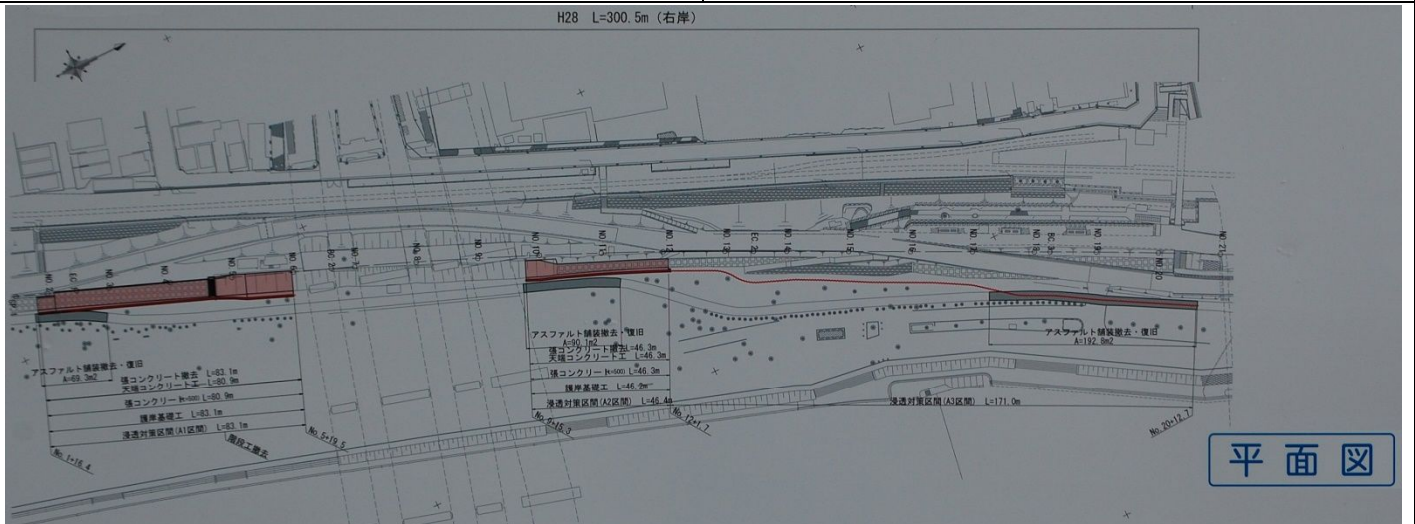
巧みに松を避けて打ち込まれた矢板



43号線橋梁下で継ぎ矢板打ち工法が採用されていた。



既存矢板を引き抜いた後に長尺矢板が打ち込まれる。



塩水浸透対策工事図（黒点は松の位置で、巧みに松を避けて矢板打ちが行われている。

43号線下流から阪神橋梁下流付近まで塩水浸透対策として長い矢板が打ち込まれており、巧みに松を避けて矢板打ちが行われているが、松の根本近くに打ち込まれるところもあり、長期的に見れば松への影響は避けられないと思う。かつて年輪調査したデータからみてこの付近の松は樹齢50~80年程度と推定出来る。生きものである以上寿命もあり、摂津名所図絵にもものっている武庫川の象徴的な景観として松林を計画的に保存する事も武庫川づくりの一環であり、今工事以降も計画的な保存の取り組みが求められる。

左岸の大庄西町工区で低水護岸矢板打ち工事が進んでおり、工事の障害になる低水護岸沿いに繁茂していた、アキニシ・センダンなどの雑木が伐採され河原が明るくなった。護岸沿いの雑木は非常に成長が早いようで数年で人の背丈を超えるようになり、野鳥には格好のすみかであろうが。成長しすぎると流下障害になったり、川の中に生えた樹木にゴミが引っ掛かり景観も悪くなる。武庫川の景観に配慮した樹木管理を河川施設の維持管理事業として取り組むべきだろうと思う。拡幅工事で景観が変化するだろうが、長期的な観点に立ってあるべき景観を話合うべきだろう。